

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2490200504		
法人名	株式会社 W (ダブリュー)		
事業所名	ういるグループホーム塩浜 1Fユニット		
所在地	三重県四日市市大字塩浜4147-1		
自己評価作成日	令和6年1月28日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&ligosyoCd=2490200504-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和5年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①炊事や洗濯、掃除など、生活活動を日課とし一緒に行なっています。施設近隣への散歩をしています。
 ②ADLの維持や向上の為、午前と午後のリハビリ体操や食前に口腔体操を実施しており、また認知症の進行予防の為に入居者皆で行えるクイズや漢字解き、ことわざ、しりとりなど入居者と一緒に考え答えを出す脳トレリハビリを積極的に行っています。また、個別で塗り絵やパズル、計算問題など出来ることを実施しています。
 ③職員が生き生きと働けるよう、職員からの提案を取り入れて入居者と一緒に楽しみや喜びを感じてもらえる。
 ④コロナウイルスの関係上、感染予防対策をして出来る限り面会を実施しております。家族への状況報告として、定期的に電話連絡をしています。また、毎月の通信やイベントの写真なども郵送し入居の皆の生活が分かるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人運営7事業所内の「グループホーム塩浜」として令和2年に開設された。昨年秋には四日市市内に同法人傘下による社会福祉法人特別養護老人ホームが開設され、当事業所のバックアップ施設としても介護ネットワークの更なる充実と利用者、家族の相談にも寄り添っている。近くを走る国道23号線のアクセスも良く、閑静な住宅街で穏やかな暮らしが伺われる。利用者が一日の大半を過ごす食堂兼リビングは、移動や出入りが制限されない程広いスペースの環境である。昨年10月、事業所駐車場内で「諏訪太鼓」の披露があり近隣住民との交流で賑わい、毎年恒例のイベント会場として馴染まれている。利用者の存在を第一に考えながら「ありのままに その人らしく」の理念の実践に努め、本来のグループホームの暮らしに思いを語る職員の声が聴ける場面があり、利用者が最期まで安心して健やかな暮らしへの支援に熱意と意欲を感じられる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念の「ありのままにその人らしく」をモットーに認知症疾患を抱えたとしても、その人らしさを大切にして過ごせるよう努めている。毎月のイベント等は職員主導で進めています。	法人と事業所理念を基に、利用者個々のどんな場面にも「笑顔」に繋がる取り組みを振り返り乍ら日々の実践に努めている。ありのままの「本人の物語」を一緒に作る個別ケアにも力を入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流は少ないですが、近隣への散歩にて地域住民の方と顔馴染みになり、外出のドライブも行っています。	自治会や連合区で年2回清掃活動には職員が参加している。利用者と近隣の散歩で顔馴染みの方が「此处私入れる？お金はいくら？」と聞かれる事も有り、地域住民とも気軽に立ち話が弾み良好な関係が持てている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けたイベント交流は出来ておりませんが、運営推進会議等にて自治会、民生委員、地域代表の方が参加していただいております。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第2回運営推進会議より対面にて実施しております。事業所の活動内容を報告しご意見やご進言からサービス向上につとめています。	令和5年8月より対面の会議再開で、本年文化祭に利用者作品展案内や、自治会からの災害に関する意見や情報も有り、実際に必要な検討を進めている。議事録は毎回家族全戸に配布開示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護高齢福祉課や包括、在介の方々とも福祉事業の取り組みの理解と協力関係を築けるよう取り組んでいる。	介護更新に係る届出や手続き相談等、日常的に行政窓口に出向いており、福祉事業の取り組みや情報交換等にも協力関係は良好である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束検討会を3か月に1回実施している。その際に、身体拘束について、虐待の種類についての研修も実施し行なっている。	身体拘束検討会が年4回実施され、勤務に合わせ全職員に行き届く様に周知徹底に努めている。どんなヒヤリハットも取り上げ、日々のケアに向き合う取り組みを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修等により周知している。職員会議の中で虐待についてのアンケート等も実施し、職員間でも虐待行為を見逃さないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	コロナウイルスの関係上、外部の研修の参加は希薄となっているが、今後、リモート研修などの参加や実施により学習する機会を作っていくよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、利用者・家族に理解して頂き承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ5類となり感染予防対策を徹底し面会の機会を設けている。検温・マスク着用・時間調整等協力いただいております。又、面会時には家族からのご意見、ご要望を聞いている。	広く安全な地域交流室を「面会室」とし午前午後1組ずつ予約制で実施され家族にも喜ばれている。立ち会う管理者とも意見交流が有り外出の要望が多く、少しずつではあるが実現に向かっている。毎月「塩浜通信」と利用者の写真が郵送され感想も寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を1か月に1回実施しており、職員の意見を吸い上げ、職員皆で一緒に考えていける体制の環境作りに努めている。	年2回人事考課と職員のメンタルケア・ライン相談窓口(守秘義務)が配慮されている。資格取得や研修等将来の事への意欲向上や悩み等にも管理者は、職員個々の相談に向き合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行ない思いや考えを聞ける環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の度に社内研修を行なっている。外部研修会についてはリモート研修など参加出来るよう努めていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	在介や包括、他の介護施設の管理者との交流、意見交換など行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族より要望を聞き取り、精神面でも安心して生活していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人や家族より要望を聞き取り、関係性を築けるように努め、本人、家族共に精神面でも安心して生活していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期のアセスメントで、本人の状況把握して生活環境等の情報収集を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯、掃除などを職員や他入居者と一緒に行うことにより、暮らしをともにする者同士の関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係性等配慮しつつ、協力して頂けることは依頼している。報告、連絡、相談を密に行ない共に支えていける支援を行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、友人の面会もみられ、外出をすることにより、人や場の関係性の継続の支援を行っている。	毎年玄関に訪れる燕を、以前小鳥屋だった利用者が楽しみにされ、現在燕の生育環境を整え馴染みの場の関係継続の支援に努めている。他の利用者も燕の雛には愛おしい気持ちを持たれている。又気の合う利用者同士が、朝から夕迄隣同士で心地良く過ごせるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握しつつ、個人の意思も尊重しながら、生活リハビリやレクリエーション、イベント等を通じ利用者が孤立する事がないように職員が交流を持てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも必要に応じて、家族のフォローや相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望・意思の把握に勤めている。困難な場合は本人の表情や行動を観察、推測し支援するように努めている。	入浴時は気持ちが開けて意外な言葉の発見があったり、テレビの旅番組で「○○に行ってみよう！」と話が出たり、職員の寄り添い方や傾聴の仕方により、思いを上手く把握出来るように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、過去の暮らしや生活歴、これまでのサービス利用の経緯等を傾聴し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で個々の言葉や表情を含め心身共に観察し小さな変化も職員間で共有して現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、協力期間と連携して、相談しながら得たアイデアを反映した介護計画作りに努めている。	介護支援専門員は看護職でも有り、入居時から2～3ヶ月は様子観察と触れ合いで本人を把握して、半年に一度アセスメント、モニタリングを実施している。支援経過記録や診療記録から反映された日常生活に即した介護計画を作成し、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	より良い介護計画書となるようケアプランの書式の見直し含め、個別に生活記録を作成し、職員間で情報共有を行い、ケアの実践や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて協力医への相談や追加往診、他専門医への相談や往診を行なっている。また訪問美容など、その時のニーズに合わせた対応、サービスを利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの関係上、地域イベントも無い状態である為、参加は出来ないが、地域の清掃活動など参加できる活動には参加させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は在宅医療機関の協力を得ており、月に2回の往診と、24時間体制での連絡、訪問を行える体制をとっている。	協力医の訪問が毎日あり、一人が月2回診療を受けている。夜間緊急時には夜勤者が管理者へ連絡し、医師からの指示が受けられる体制である。状況によっては救急搬送も対応しており、24時間安心安全な体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関にて、必要に応じて訪問看護は受けられる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療情報はかかりつけ医療機関に行なっていたり、日々の過ごし方、支援内容については施設側から情報提供させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期状態になった場合 本人、家族、主治医などと話し合いをし、希望に沿った支援方法を共に考えられるよう努めている。	昨年は一名の看取りが有り、管理者は終日、看護師の介護支援専門員も医師と連携を図り、コロナ禍でも家族は居室で立ち会う事が出来円満に迎えて貰えた。また看取り中の場合でも急変時には入院希望者も有るが、家族の希望を最優先として対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて勉強会の実施を行ったり、避難訓練の実施にて実践力を身につけられるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難マニュアルを活用し、地域との協力体制も築いていけるよう努めている。	年2回の災害時通報避難訓練を実施し、消防署からの振り返りを共有している。地震災害時は特に心配が有り、BCP(事業継続計画)も作成準備中である。1～2階の昇降避難が課題とされる中、有効的な方法を検討中である。	長時間停電経験の無い中でも、今後の備えとして万全体制の方法を確保される事を期待する。また1日分の備蓄品は既に在庫保管されているが、予備に付いても確保と、頭部を守るヘルメットの準備等も期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した丁寧な言葉かけを心掛け、何より心穏やかに過ごしていただけるように努めている。	年に一回の接遇研修があり、中でも「言葉掛け・尊厳」に関しては配慮に努めている。友達言葉や馴れ馴れしい言葉には気を付けて、利用者が遠慮や我慢の無い生活を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中から、入居者本人の希望や思いを傾聴し、引き出せるよう努めております。したい事など、目標を持って自己決定できる支援ができるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の生活のリズムに合わせて支援できるよう努めている。職員から無理強いしないよう本人の希望や要望に配慮した支援が出来るよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向や好みに合わせて、身だしなみを整え、おしゃれが出来るよう支援している。本人の希望に合わせ外出時の化粧や、入浴時のシャンプーや、入浴後の化粧水など、個別で対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節が感じられるような旬な食材を提供できるよう食事レクや、おやつ作りなど行なっている。また食事を楽しみながらできるよう調理や盛り付け、片付け等も行なっている。	刻んだ食材が業者から届き、担当職員が味付け調理している。取り分けや配膳は出来る利用者が行い、フロアでは口腔嚥下体操に利用者に参加している。昨年のクリスマスに寿司テイクアウトでは、普通食無理な利用者もマグロ寿司は完食される程喜ばれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者による栄養バランス、カロリー計算された食事を提供している。食事量、水分量など記録し、また毎月の体重測定を行ない健康管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを促し実施している。必要に応じて介助支援している。歯科医師や歯科衛生士の訪問診療の契約されている方には月2回～3回くらい入っていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録表にて排泄チェック行なっている。必要に応じてトイレ誘導も行なっており、介助必要な方は羞恥心や自尊心に配慮し対応している。	トイレで排泄を基本とし、職員の小まめな誘導で吸収パットを減らす事が出来、家族にも喜ばれる結果が得られた。夜間ポータブルトイレの利用者は赤外線センサーで職員が察知出来、安全に排泄が可能となった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食後と10時と15時に水分摂取行なっており、1日で1000mlを目標にしている。必要に応じて好みの飲み物を提供したり、体操などを行ない便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回実施している。入浴の曜日は基本決めておりますが、本人のその日の気分によって日程変更している。	週2回の入浴では一人ずつ湯を入れ替え、好みの入浴剤で気分良く楽しんで貰っている。嫌がる利用者には優しく声掛け、負担感や抵抗感を解しながら緩やかに接している。湯船が困難な場合は浴室内保温の上、シャワー浴で家族の了解も得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や意思を考慮、尊重し休息して頂いたり、安眠して頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は事務所に保管しており、職員は常に確認できる環境であり、薬変更時には送り等にて周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者にできる事や好きなことをしていただけるように支援している。編み物が好きな方は編み物をしたり、塗り絵や折り紙、食事作りの好きな方は食事作りやおやつ作りなど、個々の出来る事ややりたい事に焦点を合わせ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は、外気に触れていただく為にも施設近隣の散歩を行い、近距離へのドライブにより季節を肌で感じて頂いている。	お天気の良い日は必ず利用者と職員が、1対1で安全優先の上、1区画を交替で近隣散歩に出掛けている。敷地内のヒバの木周りや駐車場溝前の草抜きは、元気な利用者が活躍している。お正月は車のピストン移動により全員が海山神社初詣の願いを叶えられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本金銭管理は行なっておりませんが、権利擁護や後見人が代理人の方に限り、日常生活用品購入の為に預かりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者さんのご家族や友人からの電話の取次ぎや手紙のやり取りなど行なっている。コロナの頃からテレビ電話も使い始めたので継続している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられる空間作りに心掛けている。入居者と一緒に飾りを制作し、飾り付けをすることにより四季を施設内でも感じて頂いています。	地域交流室は1・2階利用者が交流出来る広さが有り、施設内で展示等の発表の場でもある。各階の食堂兼リビングは何にも誇れる開放的で自由に伸び伸びと暮らせる空間で、皆が集まり移動が制限されないゆとりのスペースである。足元にトイレ案内表示があり、利用者目線で低く配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、それぞれの利用者との関係性を考慮しながら一人でゆっくり過ごせるような席の配置に努め、それ以外に1人でゆっくりできる死角スペースや畳スペースを設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し居室の設えを考えている。昔の思い出の写真を飾ったり、アルバムなど持ってきていただいている。今後も慣れ親しんだものを持ってきていただき居心地の良い居室作りに努めている。	利用者の今迄の仕事や昔の思い出の写真等を部屋に用意して「此处は私の部屋」だと安心できる様にとの願いで、家族と共に設えた部屋である。2階は各部屋のテーマカラーを本人と選び、食堂椅子背凭れも同じカラーで配慮され、部屋間違いも解消された。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の認知度や自立度に応じ、日々の暮らしの生活でご自身で行なっていただけよう促しながら支援している。		